



令和7年産米集荷結果

農業経営支援課 山村

令和7年産米については、食味が優れ、収量は昨年を上回る結果となりました。しかし、昨年同様、高温やカメムシによる被害が課題となる年もありました。早生品種の「コシヒカリ」だけでなく、中生品種の「きぬむすめ」においても、高温の影響による心白粒や腹白粒の発生が多く、厳しい結果となっています。また、カメムシによる被害粒が非常に多く、全品種で等級落ちが問題となっています。

11月末時点の集荷量

724トン 目標対比89%（前年対比91%）

一等米比率

コシヒカリ（早生）	62%（令和6年25%・令和5年30%）
きぬむすめ（中生）	79%（令和6年28%・令和5年33%）
あいちのかおり（晩生）	38%（令和6年21%・令和5年21%）
全体	51%（令和6年35%・令和5年34%）

等級落ち理由トップ3

- 1位.. カメムシによる着色粒（51%）
- 2位.. 心白粒・腹白粒（14%）
- 3位.. もみ混入（4%）

対策のポイント

【カメムシ対策】

今年も水稻で斑点米の被害が多く発生しました。「イネカメムシ」や「アカスジカスミカメ」などの害虫が原因でできる基部斑点米は、色彩選別機では取り除くことが難しいため、色彩選別機を利用する場合でも、田んぼの除草作業や農薬による防除を必ず行いましょう。

【心白粒・腹白粒対策】

出穂～登熟期にかけてかけ流しかん水や間断かんを行なう事で高温障害による登熟不良を軽減できます。また、堆肥・土壤改良材の投入や秋耕による土づくりによって根張りを良くすることで登熟向上が期待できます。